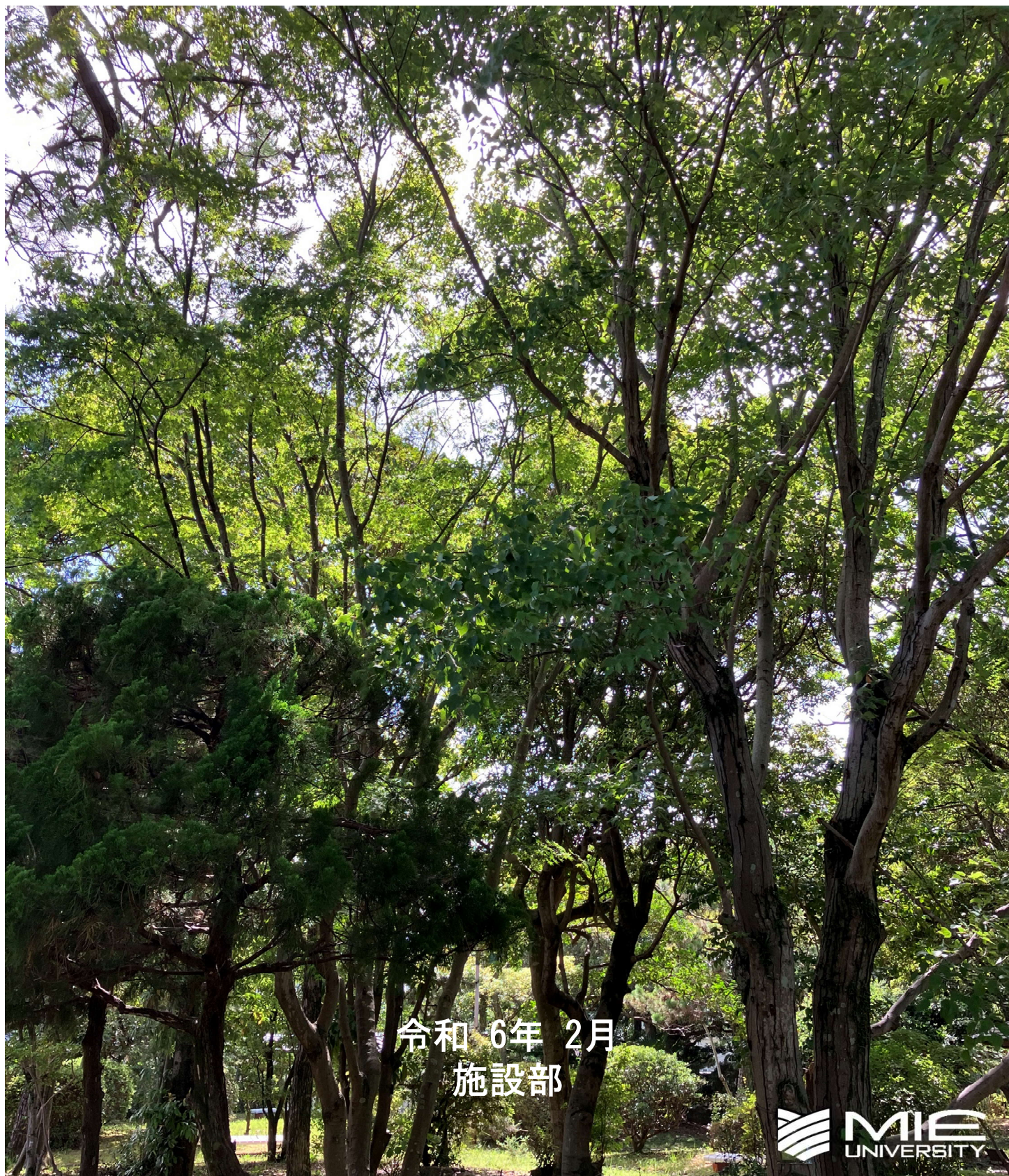


三重大学 上浜キャンパス 緑花計画

人と自然の調和 ・ 共生を目指して



令和 6年 2月
施設部

第1章 緑化計画の目的と役割

- 1.1 目的
- 1.2 緑化計画が目指す上浜キャンパス像
- 1.3 計画の内容および構成
- 1.4 本計画の運用方法について

第2章 キャンパスにおける緑化の計画

- 2.1 統一的な整備方針
 - 2.1① 並木
 - 2.1② 広場
 - 2.1③ 木立（雑木林）
 - 2.1④ 庭園
- 2.2 緑化計画図
 - 2.2① 緑化計画図 ～草地編～
 - 2.2② 植栽計画図
- 2.3 緑化整備の個別計画
 - 2.3① 桜並木
 - 2.3② アートスクエア
 - 2.3③ 集いの広場
 - 2.3④ 講堂前広場
 - 2.3⑤ 翠の小径
 - 2.3⑥ 三翠園
 - 2.3⑦ 正門広場
 - 2.3⑧ 医礎の庭
- 2.4 草地
 - 2.4① 緑化計画図 ～草地編～
 - 2.4② 草地
 - 2.4③ 花壇

第3章 現状の問題点と改善計画

- 3.1 キャンパス緑化の問題点の抽出
- 3.2 現状分析と改善計画
 - 3.2① 見通しを阻害する樹木
 - 3.2② 繁茂する枝・葉・雑草
 - 3.2③ 見映えが悪い樹木
 - 3.2④ 倒木の危険性がある樹木
 - 3.2⑤ 密集する樹木・雑木林
- 3.3 キャンパス緑化アクションプラン（PDCA）
- 3.4 緑地管理
 - 3.4① 緑地管理の目的
 - 3.4② 緑地管理の方針と留意点

第1章 緑化計画の目的と役割

1.1 目的

環境先進大学である三重大学は、人と自然の調和・共生を目指し、地域に根ざした緑あふれる「環境先進大学」としてのキャンパスづくりを推進するため、緑地の整備計画、現状の問題点と改善計画及び適切な維持管理方法などを取りまとめた、「三重大学上浜キャンパス緑化計画」を策定する。

■環境整備の手法としての緑

温室効果ガスの大幅な排出削減と経済成長の両立を図り、気候変動の影響への適応策等に貢献するため「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」（令和元年6月閣議決定）、「革新的環境イノベーション戦略」（令和2年1月統合イノベーション戦略推進会議決定）、「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」（令和3年6月経済産業省取りまとめ）等が定められている。

令和3年10月には、「地球温暖化対策計画」が閣議決定され、大学においては2030年までに2013年比51%削減の指針が示された。

これらを踏まえて本学においても環境負荷の低減、省エネルギーのための取組みには既に着手しており、その一環として「緑化」は二酸化炭素の吸着やヒートアイランド現象抑制の手法としての重要な役割を期待している。樹木1本あたりの二酸化炭素の吸収量を320kg/年^{*}とすると、本緑化計画の実行により約94.4 t/年の二酸化炭素の吸収効果が期待される。これは上浜キャンパスにおける2022年度の年間CO2排出量の0.45%に相当する。

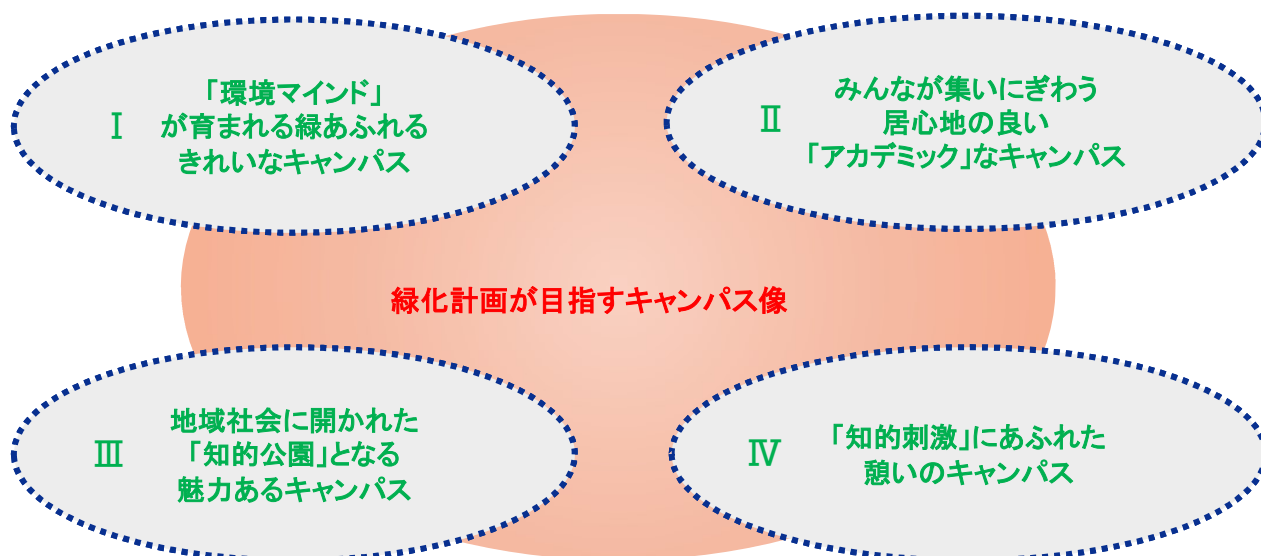
※出典：独立行政法人環境再生保全機構 大気浄化植樹マニュアル2014年度 改訂版
胸高直径15cm、樹高6～7mの常緑広葉樹として算出

■地域社会の財産としての緑

緑地帯が少ない市街地に立地する本学の緑地はまとまったボリュームの「大学の緑」であるが、地域社会の構成要素としての景観形成や環境緑化としての「地域社会の緑」として重要な財産である。この財産をたやすことなく適正に管理し、緑化の積極的な推進によってより価値を高め、未来につなげていく社会的責務がある。

1.2 緑化計画が目指す上浜キャンパス像

本計画が目指す上浜キャンパス像を以下の図の通り示す。これらは三重大学の「基本理念」、「ビジョン2030」および「キャンパスマスタープラン2018」に基づいて計画され、長期に渡り実践されるキャンパス緑化における4項目であらわされる。



1.3 計画の内容および構成

本計画は次の3章からなっている。

第1章

「緑化計画の目的と役割」では、本計画の目的、役割、内容、運用方法等の基本的事項を説明する。

第2章

「キャンパスにおける緑化の計画」では、植栽整備における基本的事項として、整備ルール設定および既存の樹木を保存するエリアや緑化を推進するエリアの等のエリア分け、将来像等を記載する。

第3章

「現状の問題点と改善計画」では、既存の緑地における問題点、課題、是正・改善方法および管理方法等を記載する。

1.4 本計画の運用方法について

1) 基本構想および企画段階

キャンパスの緑化計画における基本構想の段階では、敷地の利便性、有効活用を考慮するとともに、快適な屋外環境の確保を図るために建物周辺や構内通路に面する部分、空地の取扱い等に関する検討・計画を行う。

2) 実施段階

環境整備や建物の新営、改修工事を行う際の外構工事に関する実施計画時に利活用し、建物周辺や構内通路に面する部分、空地の取扱い等に関する実施設計を行う。また、緑化の視点におけるキャンパスの統一的な環境・デザイン設計を行う。

3) 維持管理段階

キャンパス全体の安全・安心な教育研究環境の維持管理、インフラ長寿命化計画の策定およびライフサイクルコストの適正化を行う。

4) 評価段階

環境整備、外構の整備の完了後、適宜、本計画と整備、維持管理および運営方法について、差異等がないか確認・評価を行い、快適でよりよい環境を提供するための検証、フォローアップを行う。

第2章 キャンパスにおける緑化の計画

2.1 統一的な整備方針

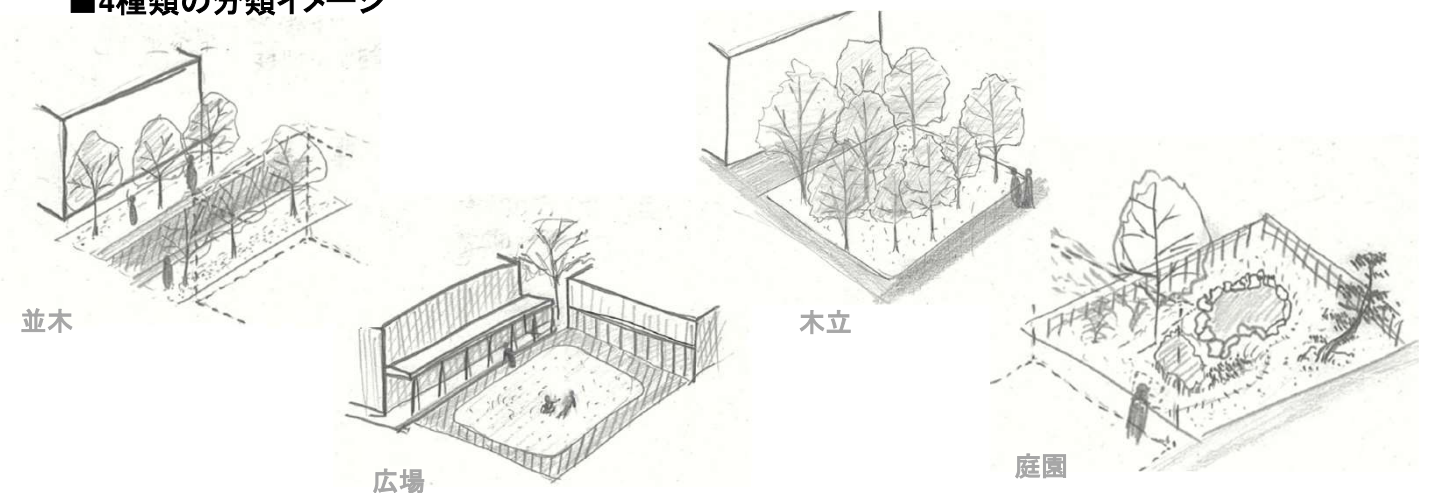
キャンパス全体の緑化に関しては、秩序的で統一感を持たせる必要があることから、以下の4種類の分類により計画、整備および管理等を行うための基本的な整備方針とする。

■4種類の分類設定

	①	②	③	④
類型	並木 row of tree	広場 square	木立(雑木林) grove、coppice	庭園 garden
特徴	構内道路に面する範囲に列に並べて植栽を行う	・構内の広い場所や建物がない場所における環境整備 ・建物と建物の間のスペースはポケットパークとして適度な植栽と工作物を設置	建物群から離れた位置の緑地帯として安全・美観・防犯等の観点に注意して適切に整備	構内において既存の樹木を保存するエリアとして指定し、周辺環境と調和するよう整備
キャンパス内におけるスポット	三翠通り (江戸橋門から海岸門) 桜並木 (新正門からグラウンド) 横断緑道 (地域イノベから地域共創プラザ) ループ道路 (南門から北門)	第一体育館西側 工学部3号館北 先端医科学教育研究棟南 生物資源学部中庭 工学部6号館北側 卓越型研究施設北側	翠の小径 南門 海岸門	三翠会館の庭 レーモンドホール 本部管理棟の築山
参照ページ	4	5、6	7	8

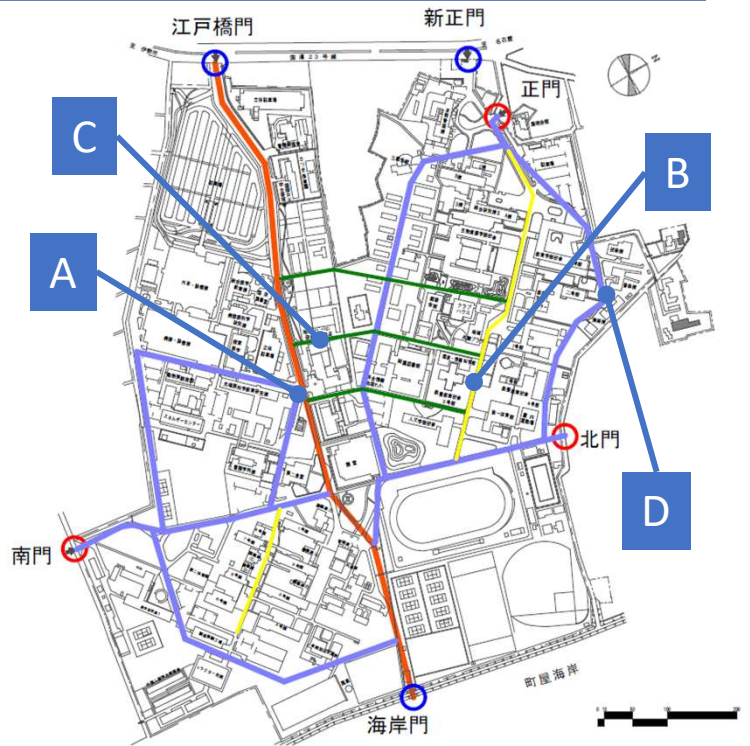
※整備場所についてはP.10緑化計画図～樹木編～を参照

■4種類の分類イメージ



2.1① 並木 row of trees

- ・ 構内道路に面する範囲に列に並べて植栽する。
- ・ 建物、道路と樹木の距離を確保する。
- ・ 樹種、樹高、間隔などに注意しバランスよく植樹する。
- ・ 新正門からグラウンド北までの区間（みどりのモール）には、ソメイヨシノや熊野桜を配し桜並木を形成する。
- ・ 三翠通り、横断緑道、ループ道路は、既存のモミジバフウ等の樹木は活かしながら並木を形成する。新設樹種はクスノキやシラカシ等の常緑広葉樹とする。
- ・ 思索の並木道は、既存の紫陽花を活かし紫陽花通りとして整備を行う。



凡例		
並木整備範囲を示す		ゲートゾーンを示す
— 三翠通り	— みどりのモール	○ メイン
— ループ道路	— 横断緑道	○ サービス

整備場所(例)



三翠通り



みどりのモール



横断緑道



ループ道路

2.1② 広場 square

- ・ 構内の広い場所や建物・植栽が必要な場所における環境を整備する。
- ・ 建物位置、構内道路、将来動線計画を踏まえ位置等を計画する。
- ・ 建物ファサード、周辺環境との調和を意識する。
- ・ 草地、花壇等もバランス良く配置し、学生教職員等の利用（集う・休憩・くつろぐ・散策等）についても考慮する。
- ・ 建物と建物間のスペースにはポケットパークとして適度な植栽と工作物を設置する。

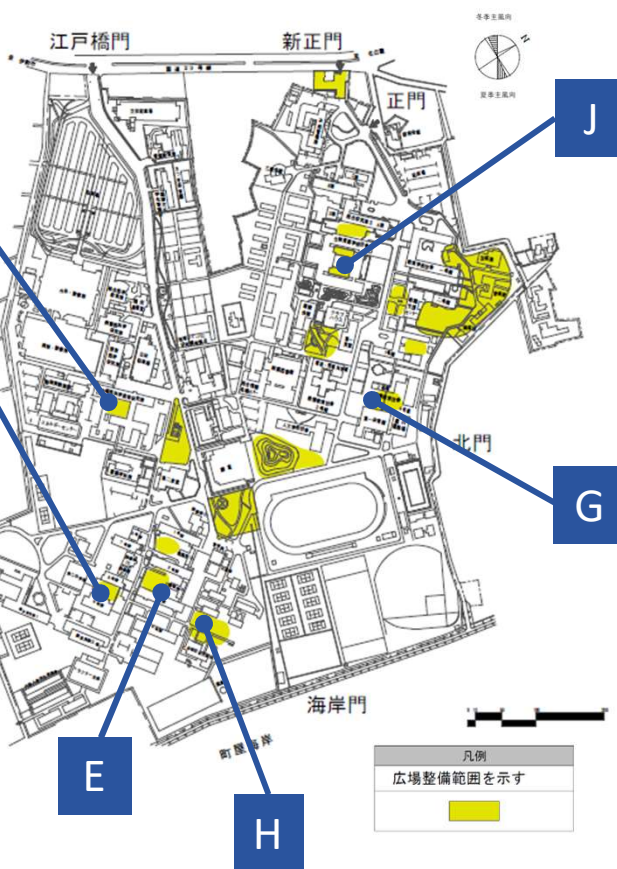
整備場所(例)



工学部3号館北



先端医科学研究棟南



第一体育館西側

2.1② 広場 square

整備場所(例)



卓越型研究施設



第2体育館



生物資源学部

2.1③ 木立（雑木林） grove、coppice

- ・統一感がありながら個性を有した緑地帯とする。
- ・建物群から離れた位置の緑地帯として整備する。
- ・無秩序な緑地帯は禁止とする。
- ・安全・美観・防犯等の観点から、既存樹木を適切に管理する。

整備場所(例)



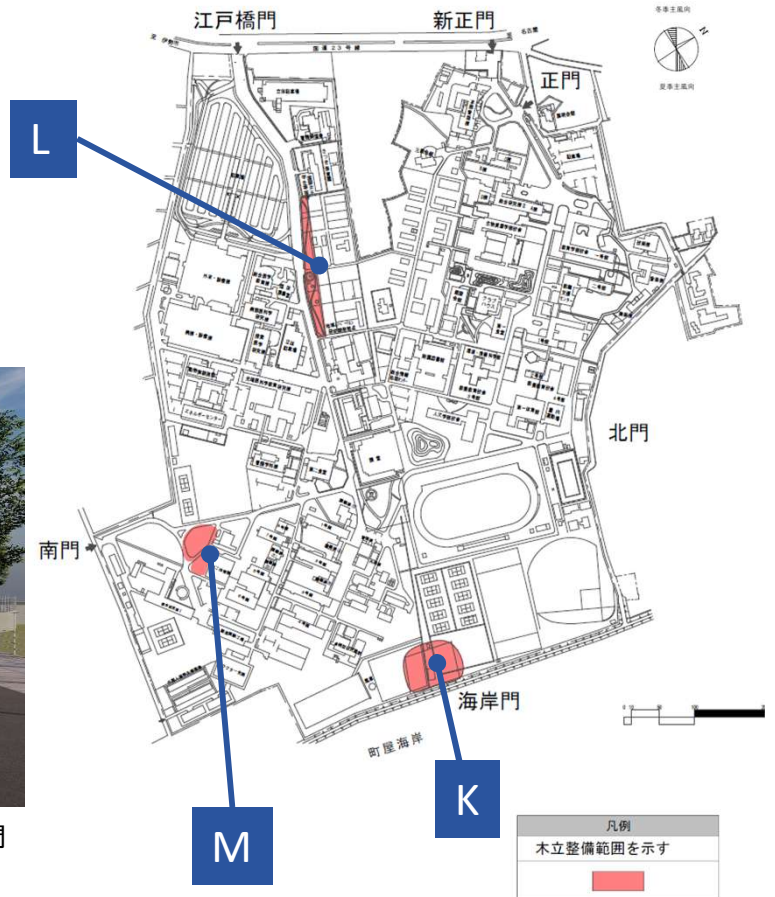
海岸門



翠の小径



南門



2.1④ 庭園 garden

- ・ 構内において既存の樹木を保存するエリアとして特に指定し、周辺環境と調和するよう整備する。（三翠会館、レーモンドホール周辺、本部管理棟東側エリア）
- ・ 三翠会館、レーモンドホール……登録有形文化財である建物の外観に調和した景観づくり
- ・ 本部管理棟東側エリア……大学の顔としてふさわしい景観づくり

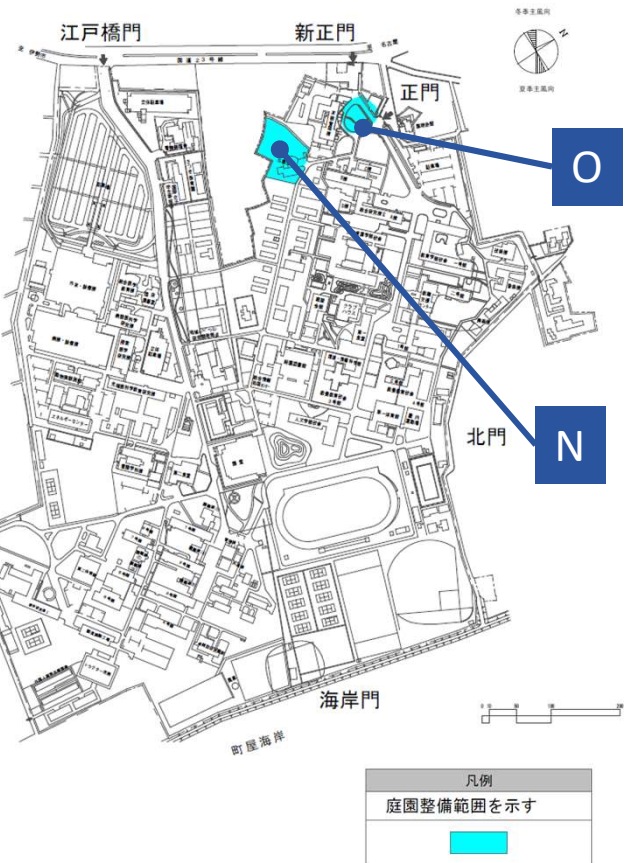
整備場所(例)



三翠会館



本部管理棟東側エリア



レーモンドホール

2.2 緑化計画図

1 基本方針

緑化にあたっては、建築物および周辺環境等との調和を図り、環境整備の視点から緑地を確保するとともに、樹木等による良好な景観形成に配慮しなければならない。また、既存樹木は移植を含め、できる限り保存するよう努める。ただし老朽化、大木化によって倒木の危険性があるものについては計画的に更新を行う。

2 環境緑化の計画および調査

環境緑化にあたっては、自然環境、地域の特性等を十分把握するため、必要な調査を行うとともに、樹種および維持管理方法に配慮し計画する。

3 植栽計画

緑地等は、キャンパス全体の配置計画において、環境緑化の効果が十分に発揮できるよう積極的に取入れ、調和のとれた植栽等の計画を行う。

4 樹木等の選定

樹木等の選定にあたっては、植栽の目的および施設の配置計画に応じて、樹木等の特性を考慮の上、できる限り次の項目を満たすよう留意し、樹種を決定する。

- ・景観に調和するもの
- ・既存樹木に調和するもの
- ・地域の自然に適したもの
- ・病虫害、煙害、潮害等に抵抗があり、被害の少ないもの
- ・維持管理が容易なもの
- ・入手が容易なもの
- ・移植が容易なもの
- ・四季感の創出ができるもの

5 配植

配植にあたっては、植栽の目的、植栽の場所などにより樹木等の種類および樹形等を考慮し、樹木の配置を検討する。

以上を踏まえ、キャンパス内の樹木および草地に関する緑化計画図を作成し、基本的事項とする。

2.2① 緑化計画図 ～樹木編～

三重大学キャンパスマスタープラン2018を踏まえ、上浜キャンパスにおける緑化計画図を定め、保存エリアや緑化推進エリア等を設定する。



凡例		
キャンパスマスタープラン上の指定	緑化計画上の指定（樹木編）	
三翠通り	●●● 並木：類型①	緑化推進エリア
ループ道路	●●● 桜並木：類型①	
みどりのモール	●●● 紫陽花通り：類型①	
横断緑道	●●● 広場：類型②	
○ ゲートゾーン（メイン）	●●● 木立（雑木林）：類型③	
○ ゲートゾーン（サービス）	●●● 庭園：類型④	
	■ 個別計画エリア	
	■ 保存エリア	
	■ 樹木密集エリア	

2.2② 植栽計画図

・植栽計画図として植樹場所、樹種を下図に示す。

・凡例

- サクラ植樹：100本
- 個別計画による植樹：50本
- 植替えによる植樹：145本

2.3⑥

三翠園

- ・アオダモ 3.0m×2本
- ・ハウチワカエデ 3.0m×2本
- ・ソヨゴ 3.0m×2本
- ・ヤマボウシ 3.0m×1本
- ・エゴノキ 3.0m×1本

2.3⑦

正門広場

- ・ソメイヨシノ 3.0m×3本
- ・クマノザクラ 3.0m×3本
- ・ドイツウヒ 4.0m×1本

2.3⑤

翠の小径

- ・ソメイヨシノ 3.0m×3本
- ・ヤエザクラ 3.0m×3本
- ・コブシ 3.0m×2本
- ・ハナミズキ 3.0m×2本

2.3②

アーツクエア

- ・イタヤカエデ 3.0m×2本
- ・イロハモミジ 3.0m×2本
- ・モミジ 3.0m×2本

2.3⑧

医礎の庭

- ・アカマツ 3.0m×1本
- ・ヒメシャラ 3.0m×1本
- ・ハクモクレン 3.0m×1本
- ・ハナミズキ 3.0m×1本
- ・オオデマリ 1.0m×1本

2.3③

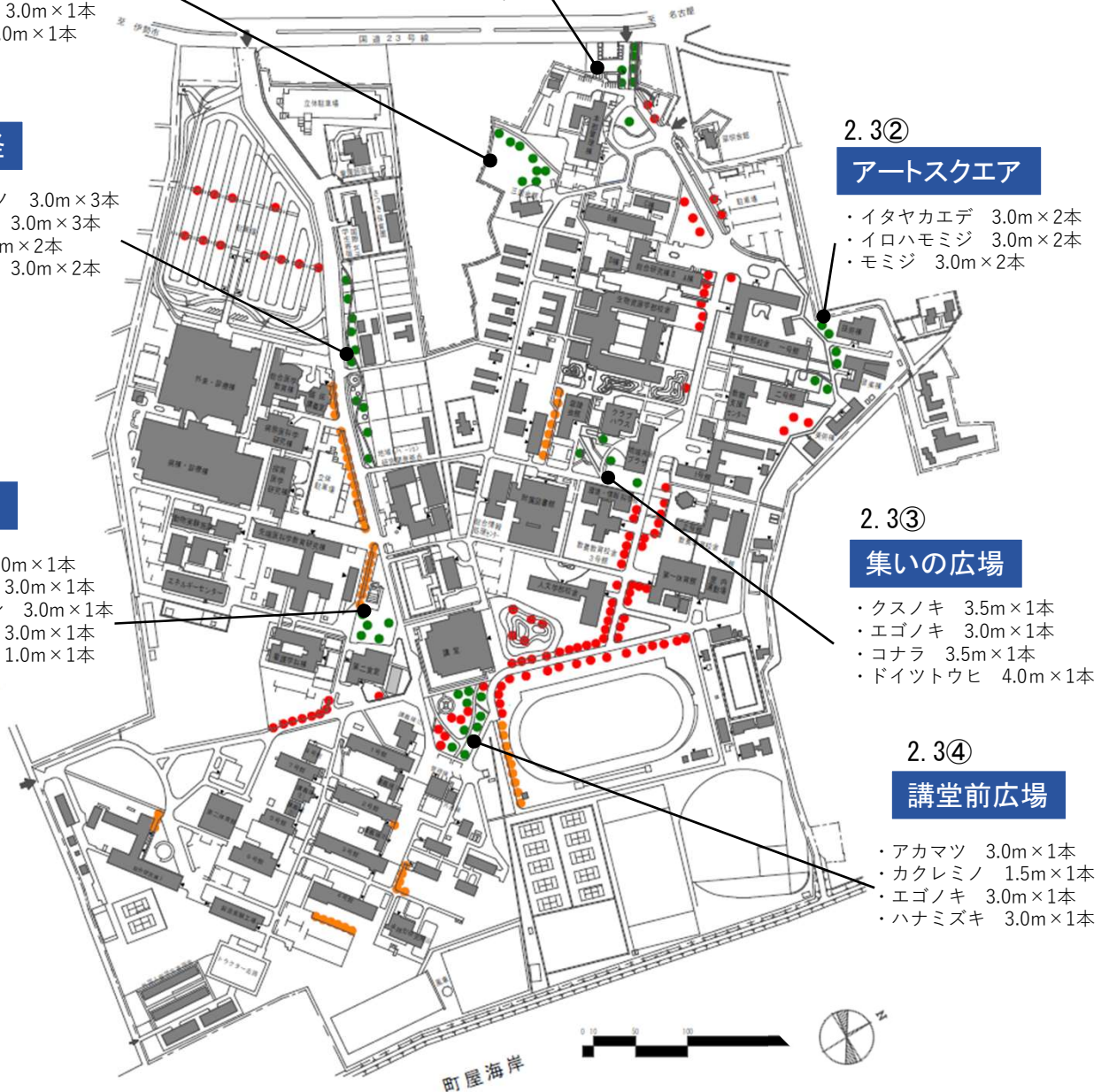
集いの広場

- ・クスノキ 3.5m×1本
- ・エゴノキ 3.0m×1本
- ・コナラ 3.5m×1本
- ・ドイツウヒ 4.0m×1本

2.3④

講堂前広場

- ・アカマツ 3.0m×1本
- ・カクレミノ 1.5m×1本
- ・エゴノキ 3.0m×1本
- ・ハナミズキ 3.0m×1本



- ・植替えによる樹種についてはクスノキ、シラカシ等の常緑広葉樹を基本とする。
- ・植替えの対象とする樹木は大木化、老朽化し、倒木の危険性があるもの、毒性のある植物とする。
(カイヅカイブキ、夾竹桃等)

2.3 緑化整備の個別計画

2.2①緑化計画図～樹木編～、2.4①緑地計画図～草地編～における「緑化整備エリア」および「草地の将来像」に関する具体的イメージを作成し、整備を推進させる。

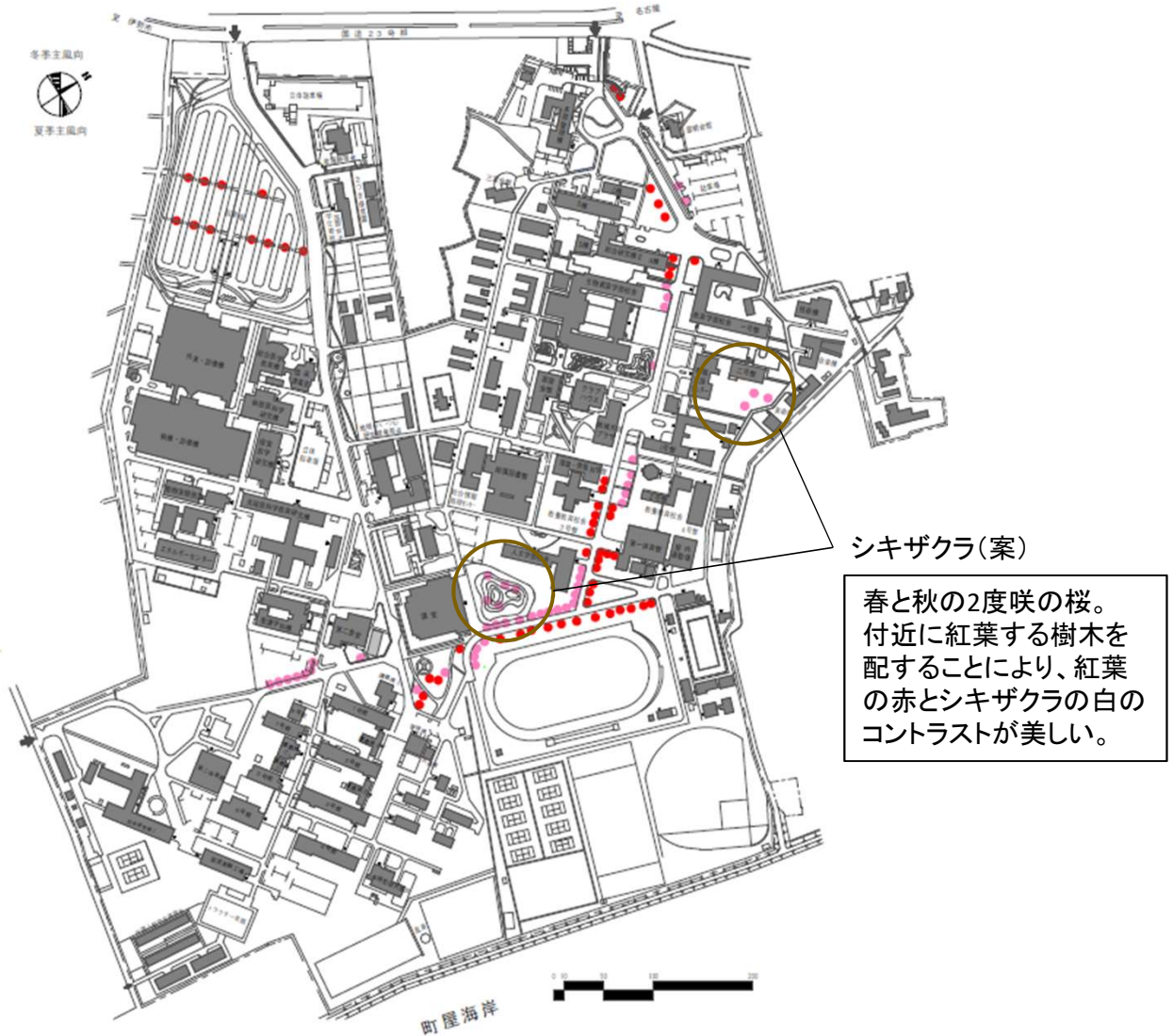
2.3① 桜並木

令和5年6月に完成した新正門整備における歩行者・自転車用道路から、キャンパス内へ通じる構内道路両側に桜並木を整備する。卒業式から入学式までの期間を満開の桜で楽しむよう、開花時期が異なる桜の植樹を計画する。



桜並木 植栽 計画図

三重大学は国立学校設置法の公布により1949年（昭和24年）に設置され、2049年に開学100周年を迎える。2024年には岡田文化財団から桜の苗木の寄贈を受け53本の植樹を行うが、以降、ネーミングライツやクラウドファンディング等の手法を用いて47本の植樹を完了させ、開学100周年に100本目の桜を記念植樹する計画とする。



桜の品種別の開花時期

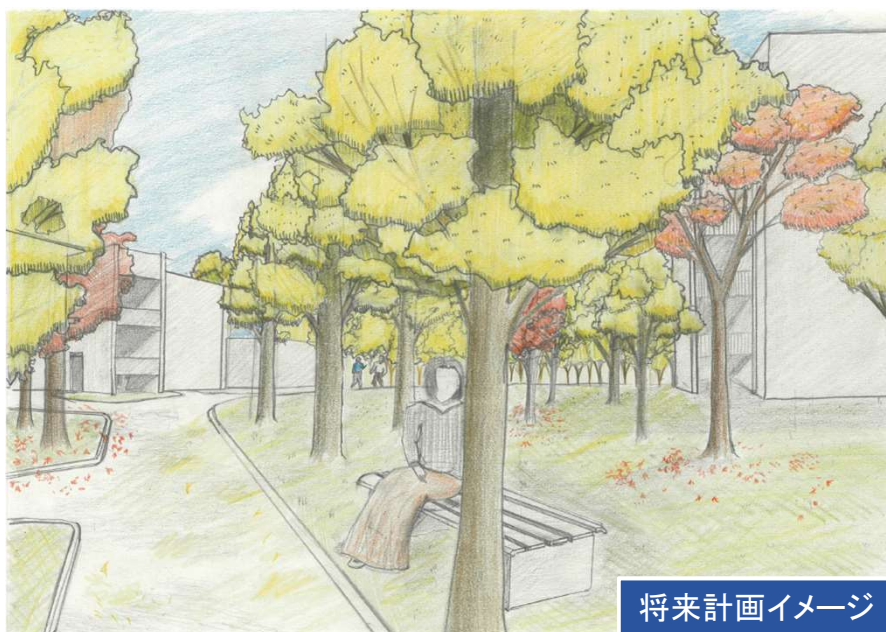
品種	開花時期					
	2月	3月	4月	5月	...	10月
カワヅザクラ	■					
シダレザクラ		■				
ソメイヨシノ		■				
クマノザクラ		■				
ヤマザクラ		■				
ヤエザクラ			■			
シキザクラ			■			■

サクラ植樹：100本

- ・ 凡例
- ... 岡田文化財団寄附 (53本)
- ... ネーミングライツ (寄附・募金・マイツリー) クラウドファンディング等による植樹 (47本)

2.3② アートスクエア

教育学部東側一帯を既存の美術作品、緑地帯、工作物等により融合させ、学生等が集い緑があふれる居心地の良い場所として「アートスクエア」を整備する。



参考植栽リスト

- ・イタヤカエデ（落葉広葉樹）3.0m×2本
- ・イロハモミジ（落葉広葉樹）3.0m×2本
- ・ヤマモミジ（落葉広葉樹）3.0m×2本

2.3③ 集いの広場

クラブハウス、地域共創プラザ、翠陵会館に囲まれたエリアを「集いの広場」とし、待ち合わせ、仲間同士の集い、食事等のためのいこいの森として整備する。

新築した地域共創プラザや改修後のクラブハウスにおける外部空間としても連携可能な空間を提供する。



参考植栽リスト

- ・クスノキ（常葉広葉樹）3.5m×1本
- ・エゴノキ（落葉広葉樹）3.0m×1本
- ・コナラ（落葉広葉樹）3.5m×1本
- ・ドイツトウヒ（常緑針葉樹）4.0m×1本

2.3④ 講堂前広場

講堂（三翠ホール）南東側に位置する緑地帯を「講堂前広場」とし、入学式や学位記授与式等のイベント時に前庭として、大人数でも利用可能な外部空間として整備する。フォトジェニックなスポットとして講堂と連携した空間を提供する。



参考植栽リスト

- ・ソメイヨシノ（落葉広葉樹）3.0m×3本
- ・ヤエザクラ（落葉広葉樹）3.0m×3本
- ・コブシ（落葉広葉樹）3.0m×2本
- ・ハナミズキ（落葉広葉樹）3.0m×2本

2.3⑤ 翠の小径

医学部附属病院北東エリアに位置する全長約200mの範囲を「翠の小径（みどりのこみち）」とし、交通動線の分離および歩行者の滞在空間を確保するとともに、研究環境と生態保全に配慮した静穏な環境として整備する。



参考植栽リスト

- ・アカマツ（常緑針葉樹）3.0m×1本
- ・カクレミノ（常緑広葉樹）1.5m×1本
- ・エゴノキ（落葉広葉樹）3.0m×1本
- ・ハナミズキ（落葉広葉樹）3.0m×1本
- ・ガクアジサイ（低木）
- ・ユキヤナギ（低木）
- ・ギボウシ（下草）
- ・ツワブキ（下草）

2.3⑥ 三翠園

本部管理棟南側、登録有形文化財三翠会館に面するエリアを「三翠園」とし、伝統と風情を感じる庭園として整備する。三翠会館との調和、自然豊かな四季折々の姿を見せることができる空間とする。



現状



将来計画イメージ

参考植栽リスト

- ・アオダモ（落葉広葉樹）3.0m×2本
- ・ハウチワカエデ（落葉広葉樹）3.0m×2本
- ・ソヨゴ（常緑広葉樹）3.0m×2本
- ・ヤマボウシ（落葉広葉樹）3.0m×1本
- ・エゴノキ（落葉広葉樹）3.0m×1本
- ・シャリンバイ（低木）
- ・ミツマタ（低木）
- ・ユキヤナギ（低木）
- ・フッキソウ（下草）
- ・ヤブラン（下草）
- ・スナゴケ（下草）

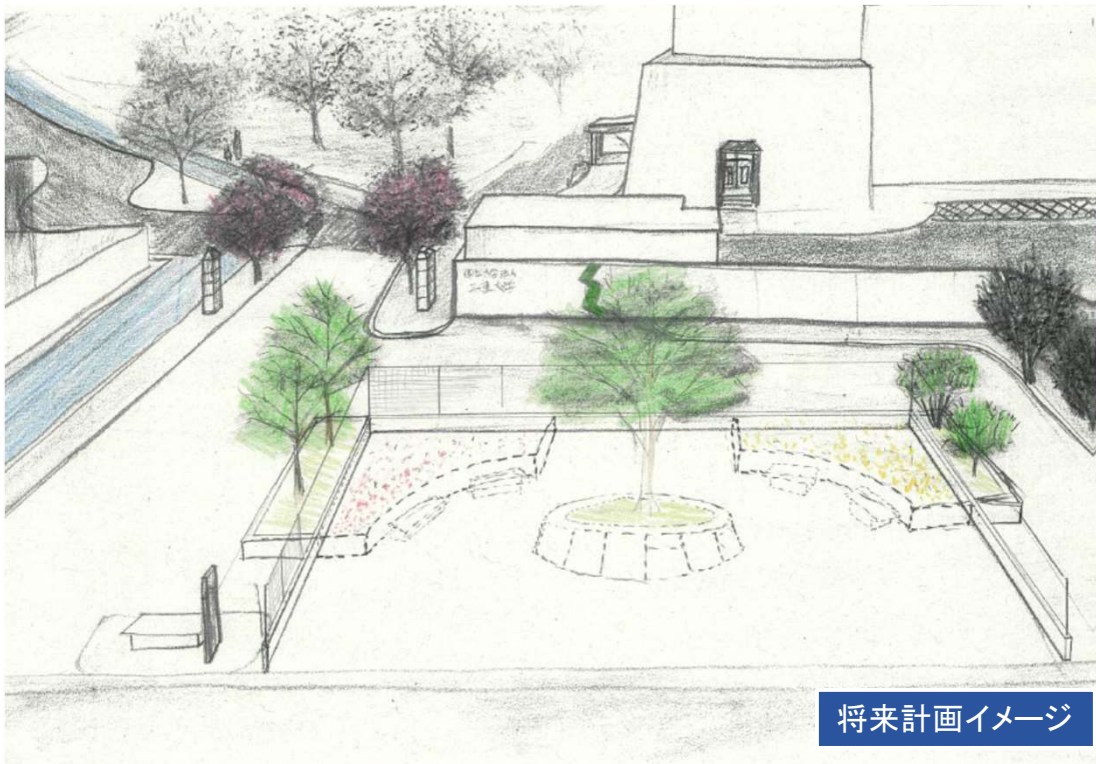
2.3⑦ 正門広場

現在の正門は自動車・自転車・歩行者が利用しており、特に午前中の授業開始前の時間帯には自動車・自転車などが集中交差し、安全面の確保が課題となっていた。そのため三重大学前バス停側に歩車分離を確保した「正門広場」を正門、広場、緑地帯等とともに一体的に整備し、新たな三重大学の顔とする。



現状

本部管理棟前築山



将来計画イメージ

新正門

参考植栽リスト

- ・ソメイヨシノ（落葉広葉樹）3.0m×3本
- ・クマノザクラ（落葉広葉樹）3.0m×3本

2.3⑧ 医礎の庭

上浜キャンパスの中央、医学部の北東に位置するエリアに献体慰霊碑等のモニュメント、記念樹を集合させ、静寂で凛とした雰囲気を持たせた「医礎の庭」として整備する。



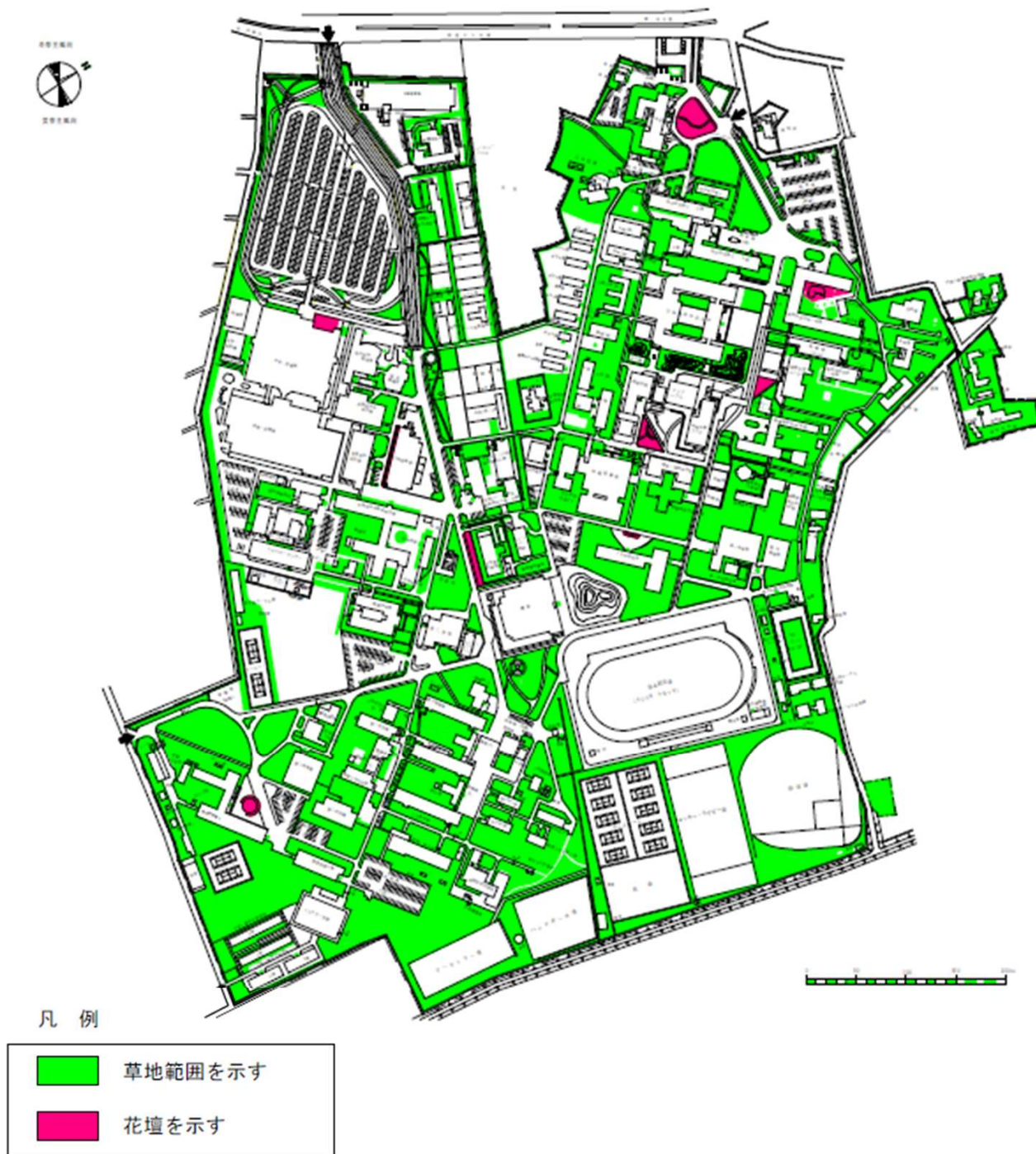
参考植栽リスト

- ・アカマツ（常緑針葉樹）3.0m×1本
- ・ヒメシャラ（落葉広葉樹）3.0m×1本
- ・ハクモクレン（落葉広葉樹）3.0m×1本
- ・ハナミズキ（落葉広葉樹）3.0m×1本
- ・オオデマリ（落葉広葉樹）1.0m×1本

2.4 草地

2.4① 緑化計画図 ～草地編～

三重大学キャンパスマスタープラン2018を踏まえ、上浜キャンパスにおける緑化計画図～草地編～を下図のとおり定め、キャンパス内の草地や花壇の整備、管理方法等を設定する。



2.4② 草地

- ・キャンパス内の草地の整備・管理方法を設定し、魅力を増幅させるとともに、植栽計画、キャンパス内の活動とリンクさせ、各エリアの特色を活かすための計画を設定する。
- ・芝、クラピア等のグランドカバーとなる植物を植えることにより、雑草の繁殖を防止する。また、頻繁に手入れのできない場所では、必要に応じて防草シートの上に砂利敷等の方法も考慮する。



繁茂する自然生えの低木は撤去する

現状

総合研究棟 I 北側



撤去後は芝張りとする(案)

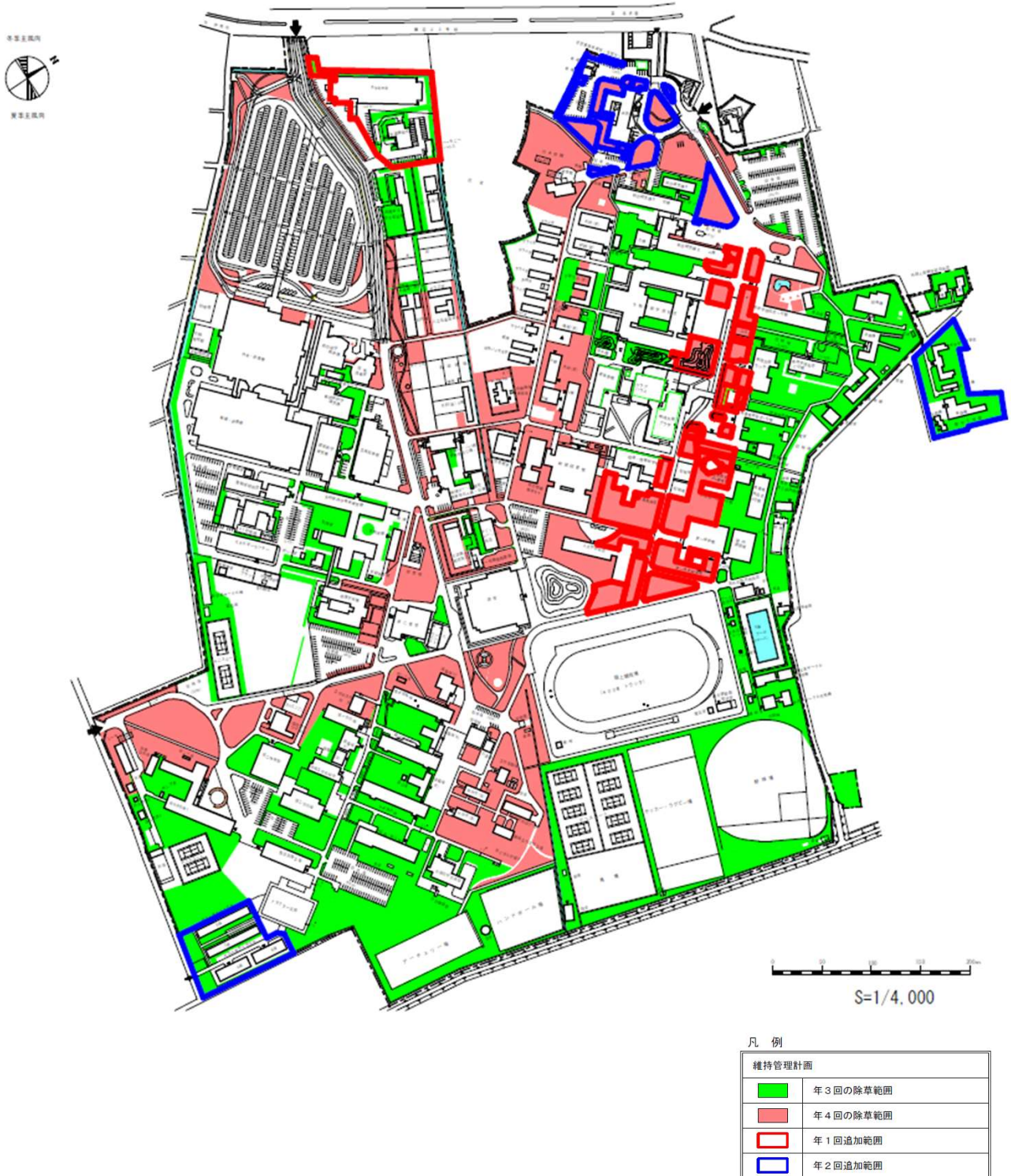
新たな雑草を抑制するような被覆植物の選定や防草シートの上に砂利敷等の方法も考慮する。

将来計画イメージ

総合研究棟 I 北側

2.4② 草地

・草地の除草計画図を示す。



2.4② 草地

・草地の除草計画スケジュール案を示す。

範囲・場所		時期											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局	本部管理棟～駐車場、 総合研究棟周辺	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
福利施設	第一食堂周辺		■	■				■	■	■		■	■
講堂周辺	講堂、 生活排水処理施設周辺		■	■				■	■	■		■	■
学務部	グラウンド、 女子寮等周辺		■	■			■	■	■	■	■	■	■
総合情報処理 センター			■	■			■	■		■	■	■	■
図書館			■	■			■	■		■	■	■	■
人文学部			■	■			■	■		■	■	■	■
地域 イノベーション			■	■			■	■		■	■	■	■
教養教育		■				■	■			■	■	■	■
教育学部		■				■	■	■		■	■	■	■
生物資源学部			■	■			■	■		■	■	■	■
工学部		■		■	■			■	■	■		■	■
附属病院		■		■				■	■			■	■
医学部			■	■			■	■		■	■	■	■
備考													

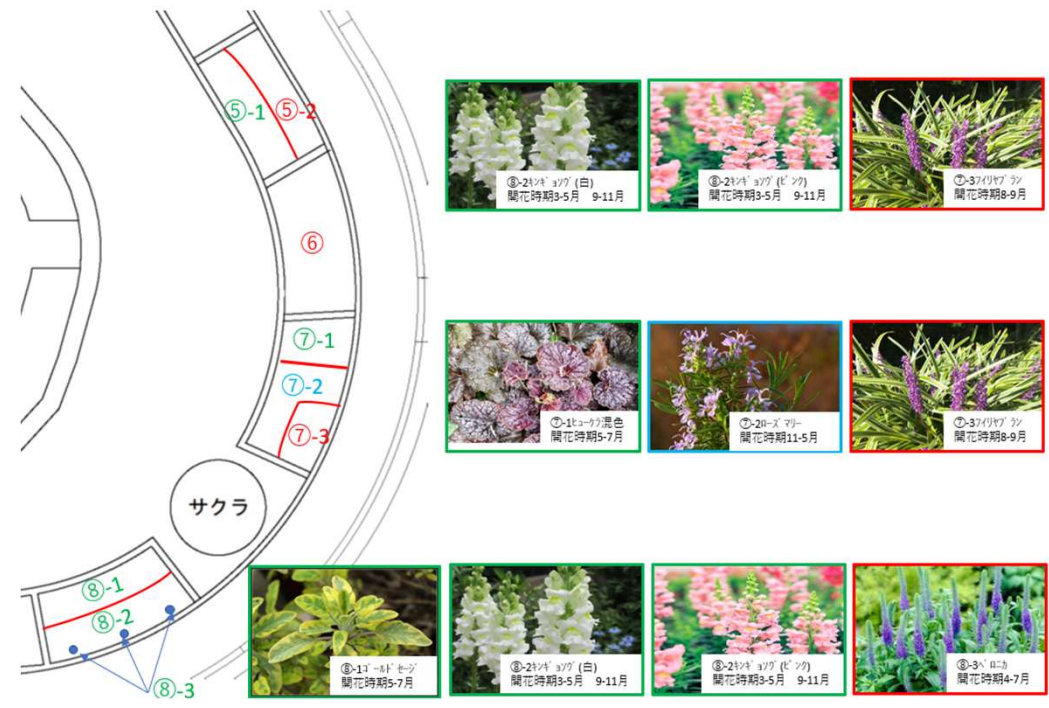
2.4③ 花壇

・本部管理棟前築山花壇について以下のとおり計画し、その他については今後検討、計画をする。



築山花壇案(⑤,⑦,⑧)

⑤、⑦、⑧は下図を参照



2.4③ 花壇

・本部管理棟前築山花壇についての植えつけ、開花時期等の一覧を示す。

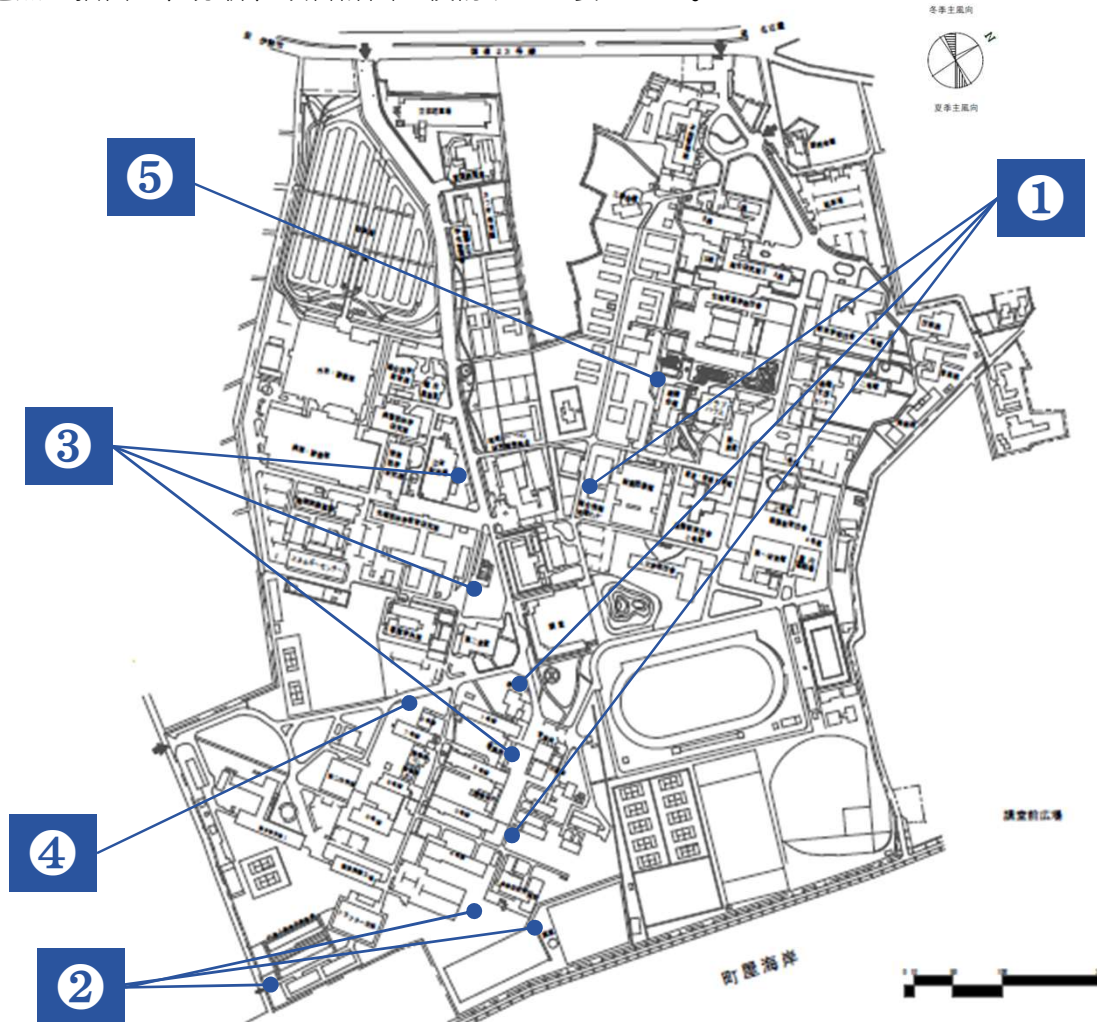
本部管理棟前築山花壇 植栽開花時期一覧

植栽名	開花時期 (月)	形態	期間	月 別												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
① ガーベラ	4~6 10~11	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
② コスモス	6~11	一年草	植えつけ													
			開花													
			枯れ													
③ コスモス	6~11	一年草	植えつけ													
			開花													
			枯れ													
④ コスモス	6~11	一年草	植えつけ													
			開花													
			枯れ													
⑤ ファイヤブラン	8~10	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑤ キンギョソウ	4~6 9~11	多年草 (一年草 扱い)	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑥ マリーゴールド	5~11	一年草	植えつけ													
			開花													
			枯れ													
⑦ ヒューケラ (おーリーフ)	5~7	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑦ ローズマリー	11~5	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑦ ファイヤブラン	8~10	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑧ ベロニカ	4~7	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑧ ゴールドセージ	5~7	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑧ キンギョソウ	4~6 9~11	多年草 (一年草 扱い)	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑨ ラベンダー	5~6	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑩~⑫ シバザクラ	4~5	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑬ ウンナンオウバイ	2~4	常緑樹	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑭ クリスマスローズ	1~3	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑮ オタフクナンテン	11~2	常緑樹	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑯ ドウダンツツジ	4~5	落葉樹	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑰ マツバギク	4~5	多年草	植えつけ													
			開花													
			花落ち													
⑱ ガクアジサイ	6~8	低木	植えつけ													
			開花													
			花落ち													

第3章 現状の問題点と改善計画

3.1 キャンパス緑化の問題点の抽出

上浜キャンパスは本学の中核キャンパスであり、すべての学問分野が一堂に会する統合キャンパスである。また、伊勢湾に面し、環境に恵まれた立地でもある。これらの潜在的な能力を十分発揮させ、地域の学術的拠点として、ふさわしいキャンパス環境をつくりあげるため、現状の問題点を抽出し、分析、改善計画を検討する必要がある。



	①	②	③	④	⑤
問題	見通しを阻害する樹木	繁茂する枝・葉・雑草	見映えが悪い樹木	倒木の危険性がある樹木	密集する樹木・雑木林
キャンパス内の場所	<ul style="list-style-type: none"> 工学部講義棟C西側 総合情報処理センター周辺垣根 卓越型研究施設北側 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生寄宿舍周辺 工学部駐車場東側 総合運動場B 	<ul style="list-style-type: none"> カイズカイブキ 夾竹桃 	<ul style="list-style-type: none"> 工学部8号館西側 	<ul style="list-style-type: none"> 総合運動場A 翠陵会館南側
参照ページ	28	29	30	30	31

3.2 現状分析と改善計画

3.2① 見通しを阻害する樹木

管理上必要な場合はやむを得ないものの、見通しを阻害する垣根や木立等の樹木は、開かれたキャンパスにおいては支障となり、安全・防犯・美観上の観点からも好ましくない。そのため、キャンパス内にふさわしい緑地帯とすべく、改善するための改善計画を設定する。



見通しを阻害する
連続的な垣根は撤去する

工学部講義棟C 西側



見通しを阻害する高さの
ある連続的な垣根、樹木
は撤去する

卓越型研究施設 北側

3.2② 繁茂する枝・葉・雑草

適切に管理された森や林は目にも優しく、キャンパス内では学生や教職員のいこいの場等として適しているが、管理が行き届いていないと、安全・防犯・美観上好ましくなく、獣害の危険性も発生する。そのため、キャンパス内にふさわしい緑地帯とすべく改善するための改善計画を設定する。



繁茂する枝は撤去する

現状

総合運動場B



将来計画イメージ

総合運動場B

3.2③ 見映えが悪い樹木

キャンパス全体の緑地においては秩序的で統一感を持たせる必要があるため、建築物や周辺環境等との調和を図り、良好な景観形成に配慮しなければならない。特に、見映えが悪い樹木については、剪定、移植、伐採等を行い、キャンパス内にふさわしい緑地帯とすべく、改善するための改善計画を設定する。



現状

工学部2号館東



将来計画イメージ

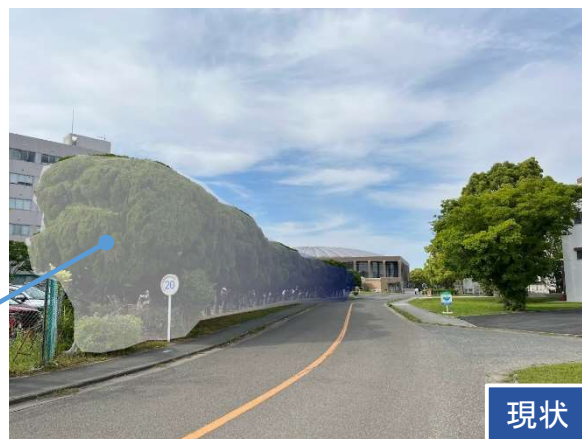
工学部2号館東

見映えの悪い樹木は撤去する

3.2④ 倒木の危険性がある樹木

既存の樹木で老朽化、大木化し台風等で倒木の可能性があるものは計画的に更新する。特にカイズカイブキは根が浅いため倒木の危険性が高く順次更新を行う計画とする。更新後の樹種の選定及び整備の分類については2章の緑化計画に基づいて決定する。

倒木の危険性の高い樹木は撤去する



現状

工学部8号館西

3.2⑤ 密集する樹木・雑木林

適切に管理された森や林は目にも優しく、キャンパス内では学生や教職員のいこいの場等として適しているが、管理が行き届いていないと、安全・防犯・美観上好ましくなく獣害の危険性も発生する。そのため、キャンパス内にふさわしい緑地帯とすべく、改善するための改善計画を設定する。



総合運動場A



総合運動場A



翠陵会館南側



翠陵会館南側

3.3 キャンパス緑化アクションプラン (PDCA)

本緑化計画を進めるにあたっては、個別計画や整備計画を実施するだけでなく、定期的な計画の達成状況の確認、進捗状況や社会・経済状況や大学のニーズの変化に応じた計画の見直しを行うことが必要である。

このため、PDCAサイクルによる進捗管理を行い、計画の実効性を高めていく必要がある。本計画において設定した各計画 (PLAN) を、事業として実施 (DO) し、計画の実施状況や目標水準の達成状況を把握・評価 (CHECK) し、それを踏まえて、計画や目標水準等の改善・見直し (ACTION) を行う。

具体的には、5年程度を目処として、進捗状況 (事業の実施状況や目標水準の達成状況等) を把握・評価し、計画や目標水準などの改善・見直しを行い、計画への反映を行う。進捗状況の把握・評価、計画や目標水準等の改善・見直しについては、全学への情報を共有しつつ、計画実施に向けた連携を図る。

アクションプラン (年次計画)

項目	実施年度															
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16				
2.3 緑地整備の個別計画																
2.3① 桜並木	PD	D	D													
2.3② アートスクエア	P		D	CA	PD	→										CA
2.3③ 集いの広場	PD	D					CA									
2.3④ 講堂前広場	PD		CA	PD	→										CA	
2.3⑤ 翠の小径	P		D	CA	PD	→										CA
2.3⑥ 三翠園	P		PD	→									CA			
2.3⑦ 正門広場	D						CA									
2.3⑧ 医礎の庭	P		PD	→									CA			
2.4② 草地	PD	D→C→A→P														
2.4③ 花壇	PD	D→C→A→P														
3.2 現状分析と整備計画																
3.2① 見通しを阻害する樹木	PD	D	D	CA					D	D	CA					
3.2② 繁茂する枝・葉・雑草	PD	D	D	CA					D	D	CA					
3.2③ 見映えが悪い樹木	P			D	D	CA					D	D	CA			
3.2④ 倒木の危険性がある樹木	PD	D	D	CA					D	D	CA					
3.2⑤ 密集する樹木・雑木林	P			D	D	CA					D	D	CA			

凡例

P : 計画 (PLAN)
D : 実施 (DO)
C : 評価 (CHECK)
A : 改善・見直し (ACTION)

3.4 緑地管理

3.4① 緑地管理の目的

緑地管理は、計画・設計の意図に基づき、植栽の生育条件を整え、その形態の育成・維持・保全を図ることによって、目的・機能を達成・維持するものである。

植栽の成長過程と管理行程を十分に認識し、段階に応じて①「養生管理」、②「育成管理」、③「抑制管理」に分けて計画する。

さらに老朽化・大木化した樹木や、周辺土地利用の変化や緑地に求められる機能・効果の再考が求められるケースに対しては、④「更新管理」を行う。

植栽の経年変化と管理ステージ

管理行程	管理の方向
① 養生管理	植栽された樹木が、立地の環境状況になじみ活着することにより、標準的な生育活動が行われるまでの期間の管理。（植栽後 1～3年） この段階での樹木は、根の発達ที่ 十分でないこともあり、水分の吸収や発散、養分の吸収などが不安定であることから、十分な注意が必要である。 よって管理の重点は、保護を主体とする管理作業となる。
② 育成管理	活着した樹木が、正常に生育活動に移行し、目標とする大きさ・形態になるまでの期間の管理。 この段階での樹木は、根茎が発達し、幹や枝の伸長が活発になることから、その適正な誘導により目標とする形態に良好に育成することが大切である。 よって管理の重点は、育成を主体とする管理作業となる。
③ 抑制管理	目標とする大きさ・形態に到達した樹木の形態を維持する期間の管理。 この段階での樹木は、一般には成木期に入り、成長活力も低下していくことから、目的とする機能を持続的に発揮させるために、その活力の維持につとめることが大切である。 よって管理の重点は、抑制・維持を主体とする管理作業となる。
④ 更新管理	樹木の老朽化、管理や樹木を取りまく環境、ニーズの変化等の対策として実施する管理。 管理の実施にあたっては緑のストックとしての適切な評価、周辺環境に与える影響を十分に検討し、「保全」・「再整備」・「撤去」の対応を決定する。

3.4② 緑地管理の方針と留意点

緑地管理の留意点として、管理対象に応じて管理ステージごとに必要な管理作業、状況に応じて実施が望ましい管理作業は次の通りである。

管理ステージ別作業項目

対象	管理作業	養生管理	育成管理	抑制管理	備考	
樹木管理	整枝・剪定	剪定1（徒長枝など）	△	△	△	
		剪定2（仕立てのための剪定）	△	○	○	
		中・低木剪定	△	○	○	
	病害虫防除		○	○	○	
	その他管理	補樹・移植	—	—	○	
		支柱	—	△	△	
		間伐	—	△	△	
		植物の保護	○	△	△	
		気象災害	△	△	△	
		清掃	○	○	○	
地被植物管理	芝生管理	刈り込み	△	○	○	
		施肥	—	○	○	
		目土かけ	—	○	○	
		病害虫防除	○	○	○	
		エアレーション	—	○	○	
		除草	○	○	○	
		灌水	○	○	○	
		補植・更新	—	—	○	
	その他地被類	剪定、刈り込み	—	△	○	
		施肥	○	○	○	
		病害虫防除	○	○	○	
		誘引	—	○	○	
	基盤管理	施肥	○	○	△	
		除草	○	○	○	群植の場合は回数を減少する。
灌水		○	○	△	植え付け年次に注意する。 他の時期は必要に応じて管理。	

凡例： ○・・・定期的に管理をすることが望ましい

△・・・必要に応じて定期的に管理をすることが望ましい

三重大学 上浜キャンパス 緑花計画 策定の経緯

令和 5年 12月20日	企画運営会議
令和 5年 12月26日	全学マネジメント会議
令和 6年 1月30日～ 2月 5日	施設マネジメント会議
令和 6年 2月27日	役員会

三重大学上浜キャンパス 緑花計画

発行/国立大学法人三重大学 施設部
2024年2月

